

(様式第10)

防医支第934号  
令和元年10月1日

厚生労働大臣 殿

管理者 防衛医科大学校病院

### 防衛医科大学校病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成30年度の業務に関して報告します。

記

#### 1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町5-1
氏 名	防衛大臣 河野 太郎

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

#### 2 名 称

防衛医科大学校病院
-----------

#### 3 所在の場所

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2	電話(04)2995-1511
-----------------------	-----------------

#### 4 診療科名

##### 4-1 標榜する診療科名の区分

- ① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜  
② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

##### 4-2 標榜している診療科名

###### (1) 内科

内科	(有) • 無
内科と組み合わせた診療科名等	
①呼吸器内科	②消化器内科
⑤神経内科	⑥血液内科
⑨感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科
	③循環器内科
	⑦内分泌内科
	④腎臓内科
	⑧代謝内科
	11リウマチ科

###### 診療実績

リウマチ科の診療は、アレルギー疾患内科またはアレルギー科において提供している。

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

## (2) 外科

外科	(有)・無
外科と組み合わせた診療科名	
①呼吸器外科 5血管外科	②消化器外科 ⑥心臓血管外科
	③乳腺外科 ⑦内分泌外科
	④心臓外科 ⑧小児外科
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ⑦産婦人科 13放射線診断科	②小児科 ⑧産科 14放射線治療科	③整形外科 ⑨婦人科 15麻酔科	④脳神経外科 ⑩眼科 16救急科	⑤皮膚科 ⑪耳鼻咽喉科	⑥泌尿器科 ⑫放射線科
---------------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	----------------	----------------

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科	(有)・無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科 13歯科	2矯正歯科 ③口腔外科
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科 6 13 20	2 腫瘍化学療法部 7 14 21	3 緩和ケア室 8 15	4リハビリテーション部 9 16	5 11 17 18	12 19
-------------------------	----------------------------	--------------------	------------------------	---------------------	----------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	10床	床	床	754床	800床

## 6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	221人	2.1人	223.1人	看護補助者	20.6人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	7人	0.2人	7.2人	理学療法士	3人	齧歯臨床検査技師	34.6人
薬剤師	22人	0人	22人	作業療法士	2人	齶歯衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	2人	その他	0人
助産師	12人	0.7人	12.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	413人	22.5人	435.5人	臨床工学士	7人	医療社会事業従事者	3人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	0人	その他の技術員	11人
歯科衛生士	3人	0人	3人	歯科技工士	1人	事務職員	66人
管理栄養士	3人	0.8人	3.8人	診療放射線技師	24人	その他の職員	23人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	28人	眼科専門医	7人
外科専門医	29人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精神科専門医	9人	放射線科専門医	8人
小児科専門医	12人	脳神経外科専門医	10人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	16人
泌尿器科専門医	11人	麻酔科専門医	11人
産婦人科専門医	8人	救急科専門医	5人
合 計			167人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

## 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名（淺野 友彦） 任命年月日 平成29年 4月 1日

--

## 9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	442.2人	6.0人	448.2人
1日当たり平均外来患者数	1,034.0人	31.2人	1,065.2人
1日当たり平均調剤数			755剤
必要医師数			107人
必要歯科医師数			3人
必要薬剤師数			14人
必要(准)看護師数			280人

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

## 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要		
集中治療室	203.2m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	11床	心電計 (有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置 (有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー (有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数	52.3m <sup>2</sup> 10台	病床数		4床
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	37.8m <sup>2</sup>		
化学検査室	252m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学迅速検体検査システム、全自動化学発光免疫測定装置、全自動蛍光酵素免疫測定装置、血液ガス分析装置		
細菌検査室	270m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細菌検査装置、全自動抗酸菌培養検査システム、全自動高圧滅菌器、恒温器、CO <sub>2</sub> 培養器		
病理検査室	252m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 電子顕微鏡、自動免疫組織化学染色装置、染色封入システム、凍結標本作製システム、密閉式自動固定包埋装置		
病理解剖室	164m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、空気清浄排気システム、安全キャビネット、ホルマリン希釀装置、超低温槽		
研究室	18,661m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 電子顕微鏡、遺伝子導入装置、定量遺伝子増幅装置、生体分子間相互作用解析装置、質量分析システム		
講義室	5,435m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	13室	収容定員 1,200人
図書室	3,023m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	8室	蔵書数 約19万冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹 介 率	81. 5%	逆 紹 介 率	53. 5%
算出根拠	A : 紹介患者の数 B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数 C : 救急用自動車によって搬入された患者の数 D : 初診の患者の数	12,882人 9,121人 2,722人 17,038人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付 す)	選定理由	利害関係	委員の要件 見識該当状況
齊藤 祐次	所沢薬剤師会 顧問	○	医療に関する見 識を有する者	有・無	1
大館 千歳	国立障害リハ ビリテーショ ンセンター病 院 看護部長		医療に関する見 識を有する者	有・無	1
島戸 圭輔	二番町法律事 務所 (弁護士)		法律に関する見 識を有する者	有・無	1
奈良 信和	自治体職員		医療を受ける者	有・無	2
根本 孝一	永仁会入間ハ ート病院 副院長		医療に関する見 識を有する者	有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	(有)・無
委員の選定理由の公表の有無	(有)・無
公表の方法	
病院ホームページにて公表	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	下部直腸癌に対する術前化学放射線療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
下部直腸癌に対し術前化学放射線療法を実施、その効果を検証するとともに、効果予測に基づいた対象症例の選別が可能か検討する。			
医療技術名	頭頸部癌の早期発見、治療効果・予後予測のための新規バイオマーカーの開発	取扱患者数	150人
当該医療技術の概要			
頭頸部癌を有する患者の治療前後の血液サンプルを用いて、癌の早期診断、手術後のモニタリング、治療効果・予後の予測のために有用なより鋭敏な新規腫瘍マーカーを探索することを目的とした研究である。			
医療技術名	咽喉頭癌に対するセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の開発	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
喉頭癌及び咽頭癌に対する低侵襲機能温存手術として経口的咽喉部分切除術に併用するセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の開発を行う。			
医療技術名	歩行補助ロボット「歩行アシスト」の神経・筋疾患に対する有効性の研究	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
歩行補助ロボット「歩行アシスト」を活用し、神経筋疾患、特にパーキンソン病疾患の小刻み歩行に対する有効性の調査を実施する。			
医療技術名	デジタルPCRを用いたウィルス定量法の確立	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
デジタルPCR法を用いた機器により、潜伏感染により腫瘍化、再活性化など様々な疾患を引き起こすウイルスについて、その検出精度をあげる。			
医療技術名	血小板減少症における MYH9 異常症のスクリーニング	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
白血病細胞株 HL60,K562,Jurkat 等を用いてアンプリコンPCRを行って目的の遺伝子であるMYH9について解析が可能であるかどうかを検討する。			
医療技術名	脳神経外科顕微鏡下手術を支援する吸引管内部留置用極細径内視鏡システムの開発	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要			
日本の誇る内視鏡技術を駆使することで脳神経外科顕微鏡下手術において術野裏側の観察を容易にし、側方視可能で吸引管内部留置用できる軟性の極細内視鏡システムを開発し、脳神経外科顕微鏡下手術を安全かつ効率的に施行するシステムを開発する。			
医療技術名	小児の軽症胃腸炎に伴うけいれんを識別するバイオマーカーの検索	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
少量の血清から多種類のサイトカイン・ケモカインを一度に測定することが可能なビーズ・フローサイトメトリー法を用いることにより、CwGに特異的に血清バイオマーカーを検索し、CwGと他のけいれん性疾患との鑑別に役に立て、治療につなげていくことを目標としている。			
医療技術名	多発性骨髄腫の診断・治療効果判定へのMultiparameter Flow Cytometry(MFC)の応用	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
既存の方法では、多発性骨髄腫の診断や治療効果判定には不十分である。MFCを用いることで、微小な骨髄腫細胞を同時にとり、正確な診断と治療効果判定ができるようになる。			

医療技術名	脂肪肝の光計測法の開発	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 メタボリックシンドロームに合併する脂肪性疾患(nonalcoholic liver disease:NAFLD)の重症度をリアルタイムに非侵襲的に評価するシステムを開発する。			
医療技術名	大腸癌術後ドレーン排液中および血中炎症性サイトカイン濃度による再発予測	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 サイトカイン濃度は術中に腹腔内に散布された遊離癌細胞や腫瘍剥離面付近に遺残した癌細胞の再活性化や浸潤増殖に影響する可能性がある。今回の検討ではドレーン排液および血中の炎症性サイトカイン濃度の測定による再発予防法を開発する。			
医療技術名	未破裂脳動脈瘤に対するキーホールクリッピングの有用性に関する検討	取扱患者数	90人
当該医療技術の概要 対象となる未破裂脳動脈瘤はほとんどが10mm以下の小型動脈瘤であるため、小さな鍵穴手術で十分に対応可能であると考えられる。欧米、中国に比べ日本で行っている施設は非常に限られており、開頭クリッピング術と同様の低コストを踏襲しつつ入院期間は血管内治療とほぼ同じ2-3日であり、低侵襲手術の先進医療として期待できる。			
医療技術名	ファイバーガイド炭酸ガスレーザーによる局所麻酔下外来日帰り軟性内視鏡下咽喉頭手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 軟性内視鏡のガイドチャンネルを介入したファイバーガイド炭酸ガスレーザーを用いた局所麻酔下咽喉頭手術の適用認可を目指し、その有用性、安全性に関する検討を行う。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数	疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	7	56 ベーチェット病	61
2	筋萎縮性側索硬化症	20	57 特発性拡張型心筋症	5
3	脊髄性筋萎縮症	3	58 肥大型心筋症	9
4	原発性側索硬化症		59 拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	9	60 再生不良性貧血	51
6	パーキンソン病	188	61 自己免疫性溶血性貧血	7
7	大脳皮質基底核変性症	1	62 発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
8	ハンチントン病	1	63 特発性血小板減少性紫斑病	87
9	神經有棘赤血球症		64 血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トゥース病	3	65 原発性免疫不全症候群	8
11	重症筋無力症	115	66 IgA腎症	28
12	先天性筋無力症候群		67 多発性囊胞腎	19
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	1	68 黄色韌帶骨化症	3
14	慢性炎症性脱髓性多発神経炎／多巣性運動ニューロパシー	28	69 後縦韌帶骨化症	29
15	封入体筋炎	3	70 広範脊柱管狭窄症	
16	クロウ・深瀬症候群		71 特発性大腿骨頭壊死症	10
17	多系統萎縮症	16	72 下垂体性ADH分泌異常症	
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	29	73 下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライソゾーム病		74 下垂体性PRL分泌亢進症	
20	副腎白質ジストロフィー		75 クッシング病	6
21	ミトコンドリア病	1	76 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	19	77 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	
23	プリオン病		78 下垂体前葉機能低下症	
24	亜急性硬化性全脳炎		79 家族性高コレステロール血症(ホモ接合)	1
25	進行性多巣性白質脳症		80 甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81 先天性副腎皮質酵素欠損症	
27	特発性基底核石灰化症		82 先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	1	83 アジソン病	4
29	ウルリッヒ病		84 サルコイドーシス	107
30	遠位型ミオパシー		85 特発性間質性肺炎	1
31	ペスレムミオパシー		86 肺動脈性肺高血圧症	16
32	自己貪食空胞性ミオパシー		87 肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンペル症候群		88 慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	1	89 リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	15	90 網膜色素変性症	4
36	表皮水疱症	1	91 バッド・キアリ症候群	1
37	膿瘍性乾癥(汎発型)		92 特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93 原発性胆汁性肝硬変	81
39	中毒性表皮壞死症	2	94 原発性硬化性胆管炎	5
40	高安動脈炎	1	95 自己免疫性肝炎	50
41	巨細胞性動脈炎		96 クローン病	141
42	結節性多発動脈炎	10	97 潰瘍性大腸炎	262
43	顯微鏡的多発血管炎	29	98 好酸球性消化管疾患	
44	多発血管炎性肉芽腫症	4	99 慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	3	100 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	11	101 腸管神経節細胞僅少症	
47	バージャー病	10	102 ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103 CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	192	104 コステロ症候群	
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	1	105 チャージ症候群	
51	全身性強皮症	5	106 クリオビリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	30	107 全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	133	108 TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	9	109 非典型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎		110 ブラウ症候群	

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数	疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)
113	筋ジストロフィー	1	163	特発性後天性全身性無汗症
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜症
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群
118	脊髓髓膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群
119	アイザックス症候群		169	メンケス病
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群
121	神經フェリチン症		171	ウィルソン病
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症		173	VATER症候群
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症		174	那須・ハコラ病
125	神經軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症		175	ウィーバー症候群
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候		184	アントレー・ピクスラー症候群
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群
136	片側巨脳症		186	ロスマンド・トムソン症候群
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群
138	神經細胞移動異常症		188	多脾症候群
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群
140	ドラベ症候群		190	聾耳腎症候群
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群
144	レノックス・ガストー症候群		194	ソトス症候群
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群
146	大田原症候群		196	ヤング・シンソン症候群
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群
151	ラスマッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症		204	エマヌエル症候群
155	ランドウ・クレファー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患
156	レット症候群		206	脆弱X症候群
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症
158	結節性硬化症		208	修正大血管転位症
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症
160	先天性魚鱗癖		210	単心室症

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数	疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	260	シトステロール血症	1
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	262	原発性高カリコミクロン血症	
215	ファロー四徴症	263	脳膜黄色腫症	
216	両大血管右室起始症	264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病	265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群	266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モワット症候群	267	高IgD症候群	
220	急速進行性系球体腎炎	42	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎	268	化膿性無菌性関節炎・壞疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	269	慢性再発性多発性骨髓炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	270	強直性脊椎炎	1
224	紫斑病性腎炎	271	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症	272	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	273	骨形成不全症	
227	オスラー病	274	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎	1	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	275	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群	276	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	277	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合	278	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群	279	クリッペル・トレノー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	280	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	3	後天性赤芽球病	
236	偽性副甲状腺機能低下症	283	ダイアモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	284	ファンコニ貧血	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	285	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	286	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症	287	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型	288	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	289	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型	290	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸	
244	メープルシロップ尿症	291	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症	292	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症	293	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症	294	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症	295	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型	296	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型	297	遺伝性脾炎	
251	尿素サイクル異常症	298	囊胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症	299	IgG4関連疾患	4
253	先天性葉酸吸收不全	300	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症	301	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	302	アッシュ一症候群	
256	筋型糖原病	303	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病	304	遲発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	305	好酸球性副鼻腔炎	3
		306		

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数	疾患名	患者数
307	カナバン病	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトル(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクロースてんかん	321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症	324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症	325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症	326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症	328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症	329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症	330	先天性気管狭窄症	

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・
・歯科外来診療環境体制加算2	・
・特定機能病院入院基本料 一般 10対1入院基本料 看護必要度加算1	・
・特定機能病院入院基本料 精神 15対1入院基本料	・
・50対1急性期看護補助体制加算	・
・臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	・
・超急性期脳卒中加算	・
・妊産婦緊急搬送入院加算	・
・診療録管理体制加算2	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・後発医薬品使用体制加算2	・
・データ提出加算2	・
・救命救急入院料2	・
・特定集中治療室管理料3	・
・小児入院医療管理料4	・
・歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準	・
・	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・がん患者リハビリテーション料
・糖尿病合併症管理料	・透析液水質確保加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・がん患者指導管理料1	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・がん患者指導管理料2	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・外来緩和ケア管理料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・地域連携診療計画管理料	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・がん治療連携計画策定料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・薬剤管理指導料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・医療機器安全管理料1	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・歯科治療総合医療管理料	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・検体検査管理加算(I)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・検体検査管理加算(IV)	・腹腔鏡下肝切除術
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・神経学的検査	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・小児食物アレルギー負荷検査	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・画像診断管理加算1	・同種死体腎移植術
・CT撮影及びMRI撮影	・生体腎移植術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・外来化学療法加算1	・人工尿道括約筋植込・置換術
・無菌製剤処理料	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(II)	・麻酔管理料(I)
・運動器リハビリテーション料(I)	・麻酔管理料(II)
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・外来放射線治療加算



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設全厚等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

## 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	消化器外科・内科、整形外科、産婦人科 1回/月 呼吸器外科・内科、乳腺外科・放射線科、腎臓内科 1回/週 剖検検討会 2~3回/月 病院CPC 3回/年
剖 檢 の 状 況	剖検症例数 45例 / 剖検率 13.0%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	補助元又は委託元
サイレント・マジョリティ(声なき声)を可視化する「生活再建過程学」の構築	秋富真司	救急部	400,000	補委 文科科研費
神経芽細胞腫におけるNIPA蛋白とMYCN蛋白の相互作用についての研究	川口裕之	小児科学	610,843	補委 文科科研費
東日本大震災の災害救援業務において救援者が被る心理的影響に関する総合研究	長峯正典	防衛医学研究センター行動科学研究部門	1,241,864	補委 文科科研費
小胞体ストレス誘導による膀胱癌新規治療法の開発	佐藤全伯	泌尿器科学	800,000	補委 文科科研費
センチネルリンパ節を標的とした新たな頭頸部癌機能温存治療の開発	荒木幸仁	耳鼻咽喉科学	813,281	補委 文科科研費
ループリック評価を取り入れたカリキュラムとその効果に関する研究	北川明	精神看護学	1,258,986	補委 文科科研費
光線力学療法によるHelicobacter pylori除菌に関する研究	平木修一	外科学	605,767	補委 文科科研費
グローバルな感染症等生物学的脅威を巡る新たな紛争領域の研究	四ノ宮成祥	分子生体制御学	1,002,238	補委 文科科研費
細胞の活動を反映する光散乱パターンを用いた脳梗塞イメージング法の開発	川内聰子	防衛医学研究センター生体情報・治療システム研究部門	1,598,563	補委 文科科研費
光と音響の生体内伝播理論に基づく胎児への酸素供給モニタリングシステムの開発	大川晋平	医用工学	1,458,102	補委 文科科研費
死後體液から死亡前発症のけいれん発作の有無を検出する法医学的診断技術の基礎的研究	金武潤	法医学	91,165	補委 文科科研費
遊離コレステロール由来シグナル制御に基づいた、脂肪肝炎・肝臓癌新規治療法の確立	富田謙吾	病院内科	2,955,116	補委 文科科研費
胎児性白血病の発祥・進展・自然治癒と造血微小環境の関連に関する研究	川口裕之	小児科学	258,410	補委 文科科研費
遺伝・環境要因相互作用のPTSDへの影響とその病態の解明	戸田裕之	精神科学	938,624	補委 文科科研費
精神科治療が脳神経細胞内オートファジー信号に与える影響の探索	清水邦夫	防衛医学研究センター行動工学研究部門	30,000	補委 文科科研費
精神科治療が脳神経細胞内オートファジー信号に与える影響の探索	戸田裕之	病院 精神科	30,000	補委 文科科研費
超分子デバイスを用いた胃癌腹膜転移診断と光線力学療法の効果に関する研究	辻本広紀	病院外科	2,273,946	補委 文科科研費
脳外科手術の中画像診断における光音響画像化技術の有用性の検討	大谷直樹	病院脳神経外科	1,273,407	補委 文科科研費
水溶液αリボ核酸導体の脳保護効果と抗酸化能:スピノ共鳴解析による検討	西田育弘	生理学	175,134	補委 文科科研費
麻酔薬の発達期脳神経回路形成に与える影響の検討	児玉光嚴	病院麻酔科	1,630,260	補委 文科科研費
ナノシートを用いた脂肪由来幹細胞移植の研究	青木伸峰	病院形成外科	3,077,215	補委 文科科研費
早産児を育てる父親の育児支援プログラムの開発	中富利香	小児看護学	1,973,912	補委 文科科研費
ミャンマーの照葉樹林帯における生活科学に関する資源利用特性と植生の関係	朝比奈はるか	病院救急部	1,754,195	補委 文科科研費
ヒトiPS細胞の奇形腫を介した分化細胞の誘導法開発と病態解明への応用	松村耕治	共同利用研究施設	1,731,443	補委 文科科研費
電気導体纖維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築	山本順司	外科学	82,608	補委 文科科研費
電気導体纖維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築	谷水長丸	外科学	0	補委 文科科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	補助元又は委託元
電気導体繊維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築	木下学	免疫・微生物学	127,456	補委 文科科研費
電気導体繊維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築	川内聰子	防衛医学研究センター生体情報・治療システム研究部門	182,072	補委 文科科研費
電気導体繊維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築	佐藤俊一	防衛医学研究センター生体情報・治療システム研究部門	91,306	補委 文科科研費
MRリンパ管イメージングが先導するリンパ浮腫の診断・治療イノベーション	曾我茂義	放射線医学	1,239,425	補委 文科科研費
ジェンダーの視点からみた介護が就労に及ぼす影響および社会的損失	仁科聖子	老年看護学	1,452,200	補委 文科科研費
細胞膜上でのADAM28活性調節機構の解析	望月早月	外科学	1,175,677	補委 文科科研費
音声の病態分析を用いた治療効果のフォローアップ技術の開発	松尾洋孝	分子生体制御学	200,000	補委 文科科研費
東日本大震災後の喪失悲嘆に対する中長期的心理社会的支援プログラムの開発と検証	高橋聰美	看護学科	500,000	補委 文科科研費
c-Metアロステリック／触媒部位を標的とした新規デュアル・インヒビターの創製	四ノ宮成祥	分子生体制御学	5,200,000	補委 文科科研費
臨界期における全身麻酔薬の神経発達制御メカニズムへ及ぼす影響	佐藤泰司	薬理学	4,030,000	補委 文科科研費
混合病棟における周産期の安全と質保証を担保するための看護人員配置に関する研究	西岡笑子	母性看護学	50,000	補委 文科科研費
開発途上国における環境汚染の小児健康影響に関する国際共同研究	西岡笑子	母性看護学	50,000	補委 文科科研費
ヒトIPS細胞と小型靈長類コモンマーモセットを用いた綿牛有毛細胞再生の前臨床検討	水足邦雄	病院耳鼻咽喉科	200,000	補委 文科科研費
児童虐待通告と看護師－家族関係に関する混合研究	浦出美緒	小児看護学	1,000,000	補委 文科科研費
経口的喉頭機能温存手術後の音声・嚥下機能評価法の確立と臨床応用	谷合信一	病院耳鼻咽喉科	2,093,184	補委 文科科研費
肝固有Kupffer細胞のコレステロール代謝における役割	中島弘幸	免疫・微生物学	1,695,880	補委 文科科研費
ヒストロール血症における脂質代謝異常の解明－トレーサー研究からのアプローチ－	池脇克則	内科学	1,632,426	補委 文科科研費
川崎病の病態における好中球細胞外トラップ(NETs)の関与とその制御機構の解明	竹下誠一郎	看護学科付	2,971,840	補委 文科科研費
汗腺機能障害からみた分子標的薬による皮膚障害の病態解析と新規治療法の開発	西澤綾	病院皮膚科	2,011,246	補委 文科科研費
慢性痒疹の多様性に基づいた病態の解明と痒みに関する研究	佐藤貴浩	皮膚科学	2,346,430	補委 文科科研費
脂肪性肝疾患の光計測	山本順司	外科学	2,800,000	補委 文科科研費
椎間板変性機序の解明に基づく新たな治療戦略の開発研究	千葉一裕	病院整形外科	2,693,820	補委 文科科研費
HiCEP法を用いた特異的腎細胞癌マーカーの同定と測定法の開発	伊藤敬一	泌尿器科学	1,137,100	補委 文科科研費
反回神経過誤再生に対する新しい治療法の開発	富藤雅之	病院耳鼻咽喉科	1,821,267	補委 文科科研費
糖尿病網膜症の発症におけるTh細胞の関与およびTh細胞を中心とした病態の解明	竹内大	眼科学	3,215,083	補委 文科科研費
止血能を有した救命蘇生用人工血液カクテルの開発	萩沢康介	生理学	1,804,921	補委 文科科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	補助元又は委託元
身体組成分析を活用したドライウェイト設定時における共同目標設定効果の研究	楣田広明	成人看護学	1,201,339	補委 文科科研費
一般病棟における終末期ケアを尊重する組織風土醸成プログラムの構築	伴佳子	成人看護学	1,277,075	補委 文科科研費
中山間地域における妊娠婦の健康支援サービスの構築	坂本めぐみ	母性看護学	2,430,397	補委 文科科研費
初めて親となる夫婦のパートナーシップ促進を支援する情報提供プログラムの開発	三上由美子	母性看護学	2,017,422	補委 文科科研費
重症者支援ネットワークを活用した機能強化型訪問看護教育プログラムの開発研究	小森直美	地域看護学	901,663	補委 文科科研費
大学生のビンジドリンクングの予防に向けた教育プログラムの開発	川井田恭子	防衛看護学	1,432,786	補委 文科科研費
地域包括支援センターの保健師による地域診断活動の推進要因の分析－量的・質的な分析	松永洋子	地域看護学	1,812,977	補委 文科科研費
地域包括支援センターの保健師による地域診断活動の推進要因の分析－量的・質的な分析	野口立彦	生物学	193,638	補委 文科科研費
重症敗血症におけるCRPの役割と治療効果	木下学	免疫・微生物学	200,000	補委 文科科研費
動的荷重心動搖軌跡分析に基づく運動技能評価プログラムの作成	松村秋芳	生物学	259,740	補委 文科科研費
デオキシアデノシンの神経毒性と分解酵素の神經保護作用の解明	太田宏之	生理学	1,754,190	補委 文科科研費
看護師の「働きがい」尺度の開発	安酸史子	成人看護学	136,552	補委 文科科研費
看護師の「働きがい」尺度の開発	北川明	精神看護学	167,384	補委 文科科研費
天然アミノ酸を利用して動脈硬化を診断・治療する	守本祐司	分子生体制御学	1,679,157	補委 文科科研費
孤独死防止へ向けての高齢者の心理特性に着目したアセメント・ツールの開発	山崎久美子	看護学科付	1,303,507	補委 文科科研費
microRNAの画期的な迅速、高感度検出法の開発	武井史恵	進学課程	1,696,312	補委 文科科研費
肝特異的自律会合型キャリア粒子の開発と応用	中村伸吾	防衛医学研究センター医療工学研究部門	2,296,804	補委 文科科研費
テラヘルツ波照射による細胞機能制御技術の開発	櫛引俊宏	医用工学	2,803,112	補委 文科科研費
全寮制の大学における髓膜炎菌保菌調査	金山敦宏	防衛医学研究センター広域感染症学・制御研究部門	1,673,601	補委 文科科研費
ヒト頭部外傷事例における脳弓下器官損傷の病理組織学的検討	原田一樹	法医学	1,560,414	補委 文科科研費
腫瘍溶解ウイルス療法に伴う免疫誘導による抗腫瘍効果の検討	塩谷彰浩	耳鼻咽喉科学	1,586,330	補委 文科科研費
緊急時に独居高齢者が自助できる自治体モデルの構築	山岸里美	防衛看護学	848,963	補委 文科科研費
DDS型超分子デバイスを用いた光線力学療法による難治性小児がん根治への試み	守本裕司	分子生体制御学	400,783	補委 文科科研費
DDS型超分子デバイスを用いた光線力学療法による難治性小児がん根治への試み	辻本広紀	医療安全・感染対策部	100,000	補委 文科科研費
DDS型超分子デバイスを用いた光線力学療法による難治性小児がん根治への試み	木下学	免疫・微生物学	77,640	補委 文科科研費
光音響技術を用いた血液酸素飽和度分布画像化装置の高精度化及び性能評価	平沢壯	医用工学	978,081	補委 文科科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	補助元又は委託元
網様体コリン作動性介在ニューロンによる運動ニューロン調節機構の形態学的解析	松井利康	解剖学	1,707,150	補委 文科科研費
心不全進展過程における腸内細菌の関与	長友祐司	病院 循環器内科	2,446,710	補委 文科科研費
血液検査が可能な精神疾患のバイオマーカーとしての脂型脂肪酸結合タンパク質の検討	古賀農人	精神科学	831,130	補委 文科科研費
3次元金属ナノ構造量産プロセスとキラル機能探索	鎌田香織	化学	2,000,000	補委 文科科研費
新規血清尿酸値制御因子を標的とした機能性食品成分の探索	松尾洋孝	分子生体制御学	900,000	補委 文科科研費
医用応用を目指した生体内の光の伝播の数理解析	大川晋平	医用工学	400,000	補委 文科科研費
元素分析による身元不明遺体の出身地域推定の検討	染田英利	解剖学	6,610,000	補委 文科科研費
受精卵への顯微注入に適らない簡便な動物個体ゲノム操作法の開発	中村伸吾	防衛医学研究センター医療工学研究部門	5,590,000	補委 文科科研費
新しい3次元配向性コラーゲンを用いた難治性尿道狭窄症に対する尿道再生技術の開発	堀口明男	病院泌尿器科	3,900,000	補委 文科科研費
発達障害傾向のある看護学生への現任教育まで含めた適応支援ガイドラインの作成	安酸史子	成人看護学	3,120,000	補委 文科科研費
独自のノックダウンマウス作製法の応用と新たな実験系の提案	中村伸吾	防衛医学研究センター医療工学研究部門	200,000	補委 文科科研費
中枢神経系悪性リンパ腫に特異的な遺伝子異常の機能解析と新規分子標的治療の開発	富山新太	病院脳神経外科	200,000	補委 文科科研費
ヘルスリテラシーとストレス対処力の形成により生涯学び成長する介入モデルの開発	安酸史子	成人看護学	100,000	補委 文科科研費
患者一看護師相互作用プロセスにおけるケア効果を引き出す最適プロセス設計の開発	早野貴美子	防衛看護学	200,000	補委 文科科研費
体内で分解し残存異物とならない新規マグネシウムデバイス開発と各種疾患治療への応用	木下学	免疫・微生物学	250,000	補委 文科科研費
ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬と抗HIV薬の併用による腎癌新規治療法の開発	浅野貴子	泌尿器科学	1,000,000	補委 文科科研費
頸骨骨髄炎への応用を目指した新規抗菌性ハイブリッド生体材料の創製	村上馨	病院歯科口腔外科	1,100,000	補委 文科科研費
メタボリックシンドロームにおける認知機能障害の新規機序解明と予防・治療への応用	石塚俊晶	薬理学	1,200,000	補委 文科科研費
子どものグリーフサポートの実践 ~死因とレジリエンスに焦点を当てた検証~	高橋聰美	精神看護学	1,300,000	補委 文科科研費
若年性認知症者の就労支援に関する研究	新山真奈美	老年看護学	1,820,000	補委 文科科研費
iPS細胞から成熟オリゴデンドロサイトへの分化誘導法の確立と髓鞘再生治療への応用	今村宰	生化学	1,400,000	補委 文科科研費
磁場を利用した選択的遺伝子導入系、および遺伝子発現操作系の開発	伊達木穂	生化学	1,600,000	補委 文科科研費
ビオグリタゾンによる食事細胞機能増強作用の機序解明	中島正裕	免疫・微生物学	1,200,000	補委 文科科研費
国連平和維持活動に従事する自衛隊員のメンタルヘルスに関する調査研究	清水邦夫	防衛医学研究センター行動科学研究部門	1,100,000	補委 文科科研費
腸管内の食事細菌抗原のペプチドランスマッターによる吸収を標的とした腸炎制御	渡邊知佳子	内科学	1,800,000	補委 文科科研費
糖尿病患者の血管内皮障害へ及ぼすグルコサミン修飾の影響と薬物介入への実験的検討	眞崎暢之	集中治療部	1,200,000	補委 文科科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	補助元又は委託元
インスリン抵抗性におけるERK2を介した臓器・血管連関の検討	難波貴之	循環器内科	1,100,000	補委 文科科研費
頸蓋内腔細胞腫瘍に特異的な遺伝子変異の機能解析と新規分子標的治療の開発	富山新太	病院 脳神経外科	1,000,000	補委 文科科研費
頭頸部癌に対する腫瘍溶解センダイウイルス療法の臨床応用に向けた発展	宇野光祐	病院 耳鼻咽喉科	1,300,000	補委 文科科研費
侵襲時の生体防御不全対策:PPARを分子標的とした自然免疫応答の制御	宮崎裕美	防衛医学研究センター外傷研究部門	1,560,000	補委 文科科研費
妊娠糖尿病女性のセルフケア行動を促進するための周産期ケアプログラムの開発	楠見ひとみ	防衛医学研究センター外傷研究部門	1,000,000	補委 文科科研費
妊娠婦の自殺リスク因子の解明と自殺予防プログラムの開発	西岡笑子	母性看護学	1,330,000	補委 文科科研費
災害時の健康危機を支えるヘルス・リスクコミュニケーションアルゴリズム開発	早野貴美子	防衛看護学	2,340,000	補委 文科科研費
microRNAを使用した拘束ストレスとカテコールアミンの心筋障害マーカーの確立	細谷直	法医学	1,600,000	補委 文科科研費
発汗異常症に続発する皮膚アレルギー疾患のメカニズムの解明	宗次太吉	皮膚科学	1,900,000	補委 文科科研費
青色光照射による網膜色素上皮障害の詳細なメカニズムの解明	高山圭	病院 眼科	1,100,000	補委 文科科研費
子育てと介護のダブルケアをしている看護師の健康に関する研究	永井菜穂子	成人看護学	1,000,000	補委 文科科研費
頸蓋内血種除去術後の再灌流障害に対する新規治療戦略の開発—水素治療効果の検討—	竹内誠	脳神経外科学	2,900,000	補委 文科科研費
HDLをターゲットとした食品由来硫黄化合物の新たな抗動脈硬化作用の解明	池脇克則	内科学	150,000	補委 文科科研費
助産師と考える妊娠婦への心理的アプローチ	櫻井薫	母性看護学	80,000	補委 文科科研費
感染と関連した腎疾患における補体を介した腎組織障害機序とその指標の解明	熊谷裕生	内科学	100,000	補委 文科科研費
感染と関連した腎疾患における補体を介した腎組織障害機序とその指標の解明	村越貴子	小児科学	100,000	補委 文科科研費
Compromised hostでの免疫不全の病態解析と高度侵襲対策	木下学	免疫・微生物学	100,000	補委 文科科研費
Compromised hostでの免疫不全の病態解析と高度侵襲対策	宮崎裕美	防衛医学研究センター外傷研究部門	100,000	補委 文科科研費
水蒸気マイクロミストジェット噴射洗浄器の生体への適用	石原雅之	防衛医学研究センター医療工学研究部門	2,900,000	補委 文科科研費
医療ニーズの高い在宅療養小児を対象にした訪問診療看護師制度の創設に関する研究	村松真千子	基礎看護学	500,000	補委 文科科研費
分子疫学解析による難聴関連遺伝子の同定とゲノム個別化予防に向けた研究	四ノ宮成祥	分子生体制御学	3,770,000	補委 文科科研費
バーキンソン病予防に向けた尿酸の神経保護的作用を解明する分子遺伝疫学解析	松尾洋孝	分子生体制御学	2,900,000	補委 文科科研費
動脈硬化の発症に寄与する内膜アボトーシスの検討	藤本典宏	皮膚科学	1,900,000	補委 文科科研費
生体内に注射針にて注入・展開・作動可能なナノ薄膜条アンテナの開発	太田宏之	生理学	100,000	補委 文科科研費
LPSトレランスにおける抗腫瘍活性と臨床応用に向けての新技術の開発	山本順司	外科学	200,000	補委 文科科研費
LPSトレランスにおける抗腫瘍活性と臨床応用に向けての新技術の開発	木下学	免疫・微生物学	68,488	補委 文科科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	補助元又は委託元
LPSトランクにおける抗腫瘍活性と臨床応用に向けての新技術の開発	守本祐司	生理学	100,000	補委 文科科研費
LPSトランクにおける抗腫瘍活性と臨床応用に向けての新技術の開発	青笹季文	外科学	200,000	補委 文科科研費
LPSトランクにおける抗腫瘍活性と臨床応用に向けての新技術の開発	野呂拓史	外科学	200,000	補委 文科科研費
光化学的相互作用を活用した三次元培養皮膚の高品質化および品質評価に関する研究	角井泰之	防衛医学研究センター生体情報・治療システム研究部門	1,100,000	補委 文科科研費
国際救援活動中の運動習慣が救援者の心身の健康に及ぼす影響の解明	野口宣人	防衛看護学	1,100,000	補委 文科科研費
訪問看護導入に伴うアセスメントツールの開発	下吹越直子	地域看護学	1,100,000	補委 文科科研費
虚血性神経障害による下肢切断リスク回避のための光音響イメージング開発	石原 美弥	医用工学	6,760,000	補委 文科科研費
ドラッグデリバリー型光温熟葉剤と加温制御機構を駆使した高効率がん治療システム	守本祐司	分子生体制御学	7,020,000	補委 文科科研費
国際コンソーシアムを活用した日本発の痛風の分子疫学研究による予防医学への応用	松尾洋孝	分子生体制御学	5,330,000	補委 文科科研費
PIP3関連分子異常による原発性免疫不全症の病態解明と新規原因遺伝子同定	野々山恵章	小児科学	7,020,000	補委 文科科研費
乳歯齒胞細胞由来iPS細胞からのインスリン分泌β細胞の再生	中村伸吾	防衛医学研究センター 医療工学研究部門	50,000	補委 文科科研費
AI遠隔医療プラットホームを活用した小児外科医療資源最適化への挑戦	木下学	免疫・微生物学	30,000	補委 文科科研費
バイオテンプレート技術による金属マイクロコイルの物性開発及び種類ナノホールアレイを応用した分散型創御チップの開発	鎌田香織	化学	0	補委 文科科研費
血流解析のために必要な先天性心疾患の光音響効果を利用した生体情報計測システムの開発	石原美弥	医用工学	300,000	補委 文科科研費
ストレスチェック用デバイス開発に関する研究	守本祐司	分子生体制御学	0	補委 文科科研費
治験開始にむけた前立腺癌に適用する光音響画像診断技術開発	石原美弥	医用工学	21,000,000	補委 厚労科研費
自己炎症性疾患の治療標的分子同定および薬剤開発基盤整備	野々山恵章	小児科学	975,000	補委 厚労科研費
原発性免疫不全症に対するex vivo遺伝子・細胞治療の治験実施体制の構築と人材育成に関する研究	野々山恵章	小児科学	1,000,000	補委 厚労科研費
原発性免疫不全症の診断困難例に対する新規責任遺伝子の同定と病態解明	野々山恵章	小児科学	800,000	補委 厚労科研費
疾患iPS細胞を活用した難治性血液・免疫疾患の病態鮮明と治療法開発	野々山恵章	小児科学	2,600,000	補委 厚労科研費
タウリンによるMELAS脳卒中発作再発抑制療法の実用化	海田賢一	内科学	500,000	補委 厚労科研費
抗Neurofascin155抗体関連中枢・末梢神経障害症候群(CCPD/CIDP)の診療ガイドライン作成のための定量的抗体測定法の開発と基盤エビデンスの構築	海田賢一	内科学	700,000	補委 厚労科研費
超高齢者社会における治癒困難な高齢切除不能進行再発大腸癌患者に対する標準治療確立のための研究	上野秀樹	外科学	260,000	補委 厚労科研費
標準的乳がんラジオ波熱焼灼療法確立のための多施設共同臨床研究	津田均	病態病理学	800,000	補委 厚労科研費
上皮性卵巣癌の妊娠性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験	津田均	病態病理学	1,000,000	補委 厚労科研費
上皮性卵巣癌の妊娠性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験	高野政志	腫瘍化学療法部	1,000,000	補委 厚労科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	補助元又は委託元
備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究	高瀬凡平	集中治療部	1,125,000	補委
備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究	木下学	免疫・微生物学	1,125,000	補委
アトピー性皮膚炎の難治性皮膚病変の病態解析と病態に基づいた革新的な核酸医薬外用療法の医師指導型臨床研究	佐藤貴浩	皮膚科学	500,000	補委
高次脳機能障害支援における血液バイオマーカーの活用に関する研究	守本祐司	分子生体制御学	620,000	補委
新型インフルエンザへの対応に関する研究	川名明彦	内科学	1,500,000	補委
頭頸部癌全国症例登録システムの構築と臓器保存治療のエビデンス創出	塩谷彰浩	耳鼻咽喉科	510,000	補委
HER2陽性乳癌に対する手術省略を目指したバイオマーカー開発研究	津田均	病態病理学	800,000	補委
早期胃癌に対する画期的な個別的・超低侵襲手術法の開発と検証	辻本広紀	医療安全・感染対策部	600,000	補委
嚥下障害に対する包括的嚥下障害基礎訓練法の提唱と有効性の検討	唐帆(中島)純子	歯科口腔外科	260,000	補委
原発性免疫不全症候群の診断基準・重症度分類および診療ガイドラインの確立に関する研究	野々山恵章	小児科学	25,000,000	補委
自己炎症性疾患とその類縁疾患の全国診療体制整備、重傷度分類、診療ガイドライン確立に関する研究	野々山恵章	小児科学	600,000	補委
中小医療機関向け医療機器保守点検の方に関する研究	石原美弥	医用工学	2,700,000	補委
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	穂苅量太	内科学	250,000	補委
特発性後天性全身性無汗症の機能的発症因子、治療法、予後の追跡研究	佐藤貴浩	皮膚科学	350,000	補委
2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会にむけての救急・災害医療体制の構築に関する研究	齋藤大蔵	外傷研究部門	350,000	補委
女性の健康の社会経済学的影响に関する研究	西岡笑子	母性看護学	1,000,000	補委
女性の健康の社会経済学的影响に関する研究	古谷健一	産科婦人科学	100,000	補委
社会構造の変化を反映し医療・介護分野の施策立案に効果的に活用し得る国際統計分類の開発に関する研究	佐藤洋子	医療工学研究部門	500,000	補委
東電福島第一原発緊急作業従事者に対する疫学的研究	重村淳	精神科学	1,000,000	補委
乳がんに対する標準治療確立のための多施設共同研究とバイオマーカーの探索	津田均	病態病理学	750,000	補委

計 20件

合計 176件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	岡田陽介	血液内科	Sudden blast phase in chronic myeloid leukemia developed during nilotinib therapy after major molecular response was achieved.	Int J Hematol. 2018/04	Case report
2	渡邊純一	血液内科	CBL mutation and MEFV single-nucleotide variant are important genetic predictors of tumor reduction in glucocorticoid-treated patients with chronic myelomonocytic leukemia.	Int J Hematol. 2018/07	Original Article
3	前川隆彰	血液内科	Low mucosal-associated invariant T-cell number in peripheral blood of patients with immune thrombocytopenia and their response to prednisolone.	PLoS One. 2018/11	Original Article
4	Otani N	脳神経外科	Surgical Strategies for Ruptured Complex Aneurysms Using Skull Base Technique and Revascularization Surgeries	Asian J Neurosurg. 2018 Oct-Dec;13(4):1165-1170	Original Article
5	Otani N	脳神経外科	Surgical Indications and Methods for Traumatic Intracranial Lesions	No Shinkei Geka. 2018 Sep;46(9):823-838	Review

6	Otani N	脳神経外科	Less Invasive Modified Extradural Temporopolar Approach for Paracclinoid Lesions: Operative Technique and Surgical Results in 80 Consecutive Patients.	2018 Oct;79(Suppl 4):S347-S355	Original Article
7	Wada K	脳神経外科	Superficial Temporal Artery to Anterior Cerebral Artery Hemi-bonnet Bypass Using Radial Artery Graft for Prevention of Complications after Surgical Treatment of Partially Thrombosed Large/Giant Anterior Cerebral Artery Aneurysm.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2018 Dec;27(12):3505–3510	Original Article
8	Otani N	脳神経外科	Modified Extradural Temporopolar Approach for Paracclinoid Aneurysms: Operative Nuance and Surgical Result.	Acta Neurochir Suppl. 2018;129:33–37.	Others
9	Otani N	脳神経外科	Novel Technical Variations and Increased Adhesive Strength in the "Birdlime" Transposition Technique for Microvascular Decompression.	World Neurosurg. 2018 Aug;116:e460–e468	Original Article
10	Otani N	脳神経外科	Suction Decompression during Anterior Clinoidectomy for Direct Clipping of Paracclinoid Aneurysm Involving the Anterior Clinoid Process.	Asian J Neurosurg. 2018 Apr–Jun;13(2):482–484	Original Article
11	Mori K	脳神経外科	Keyhole strategy aiming at minimizing hospital stay for surgical clipping of unruptured middle cerebral artery aneurysms.	J Neurosurg. 2018 Apr 1:1–8.	Original Article

12	Otani N	脳神経外科	Multistaged, multidirectional strategy for safe removal of large meningiomas in the pineal region.	Neurosurg Focus. 2018 Apr;44(4):E13	Original Article
13	Koiji Tsutsumi	心臓血管外科	Emergency surgery for	Asian Cardiovasc 2019.3	Original Article
14	Hiroshi Hashimoto	呼吸器外科	Primary biphasic	Int J Case 2018.7	Case report
15	Shinichi Taguchi	心臓血管外科	Comprehensive review	Gen Thorac Cardiovasc 2018.4	Review
16	Takiguchi S	抗加齢血管内科	Hepatic Overexpression of Endothelial Lipase Induces a Markedly Low HDL-Cholesterol but Maintains Macrophage Reverse Cholesterol Transport in Mice: Role of SR-BI/ABCA1-dependent pathways	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2018 July 38:1454–1467	Original Article
17	Ito M	抗加齢血管内科	Postprandial Hyperlipemia is an Indication for Additional Risk in Sitosterolemia	J Atheroscler Thromb. 2018 Dec 25:1183–1184	Others

18	Komatsu T	抗加齢血管内科	Apolipoprotein C-II Mimetic Peptide Promotes the Plasma Clearance of Triglyceride-Rich Lipid Emulsion and the Incorporation of Fatty Acids into Peripheral Tissues of Mice	J Nutr Metab. 2019 Feb (オンライン)	Original Article
19	Mizutari Kunio	耳鼻咽喉科	Blast-induced hearing loss.	J Zhejiang Univ Sci B .20 (2)111–115.2019.2	Review
20	Araki Koji	耳鼻咽喉科	Feasibility of transnasal flexible carbon dioxide laser surgery for laryngopharyngeal lesions.	Auris Nasus Larynx.2019 Feb (オンライン)	Original Article
21	Tanaka Yuy	耳鼻咽喉科	immunoresponses suppress "simulated metastasis" of squamous cell carcinoma in an immunocompetent mouse model.	Head and Neck. 2019 Jan (オンライン)	Original Article
22	Araki Koji	耳鼻咽喉科	Gene Therapy for Recurrent Laryngeal Nerve Injury.	Genes (Basel) 9(7)316 2018.6	Review
23	Kosuke Miyai	検査部 (臨床検査医学講座)	Seminoma component of mixed testicular germ cell tumor shows a higher incidence of loss of heterozygosity than pure-type seminoma.	Hum Pathol. 2019 Feb; 84: 71–80	Original Article

24	Kosuke Miyai	検査部 (臨床検査医学講座)	Invasive form of ciliated muconodular papillary tumor of the lung: A case report and review of the literature.	Pathol Int. 2018 Sep; 68: 530-5	Case report
25	Maki Yohei	内科学(感染症・呼吸器)	Empyema with Multiple Bronchopleural Fistulae Improved by Bronchial Occlusion Using an Endobronchial Watanabe Spigot with the Push and Slide Method.	Internal Medicine. 2018 Dec	Original Article
26	Tatsuya Kodama	内科学(感染症・呼吸器)	Cerebral syphilitic gumma in immunocompetent man, Japan.	Emerging Infectious Diseases. 2018 June; 24: 395-396	Original Article
27	Murohashi K	内科学(感染症・呼吸器)	Clinical significance of serum hemeoxygenase-1 as a new biomarker for the patients with interstitial pneumonia.	Canadian Respiratory Journal. 2018 June(オンライン); <a href="https://doi.org/10.1155/1-7">https://doi.org/10.1155/1-7</a>	Original Article
28	Tanichi M	精神科	Differential effects of voluntary wheel running and toy rotation on the mRNA expression of neurotrophic factors and FKBP5 in a post-traumatic stress disorder rat model with the shuttle-box task	Biochemical and Biophysical Research Communications 501(1) p.307-312 2018.06	Original Article
29	Saito T	精神科	Construct validity and reliability of the Tachikawa Resilience Scale in the Japan Ground Self-Defense Force personnel	Neuropsychiatric Disease and Treatment 14 p. 2505 -2510 2018.10	Original Article

30	Nagamine M	精神科 (行動科学)	The relationship between dispositional empathy and psychological distress among Japan Ground Self-Defense Force personnel deployed to international disaster relief mission	BMC Psychiatry 18(1) p.328 2018.10	Original Article
31	Tanichi M	精神科学講座	General psychological distress among Japan Self-Defense Forces personnel dispatched on United Nations peacekeeping operations and their spouses	Psychiatry and Clinical Neurosciences 73(2) p. 77–83 2019.2	Original Article
32	Chiba K	整形外科	Condoliase for the Treatment of Lumbar Disc Herniation: A Randomized Controlled Trial.	Spine (Phila Pa 1976). 2018 Aug 1;43(15):E869–E876	Original Article
33	Hosogane N	整形外科	Ethnic Variations in Radiographic Parameters and SRS-22 Scores in Adult Spinal Deformity: A Comparison Between North American and Japanese Patients Above 50 Years of Age With Minimum 2-Year Follow-up.	Clin Spine Surg. 2018 Jun;31(5):216–221.	Original Article
34	Ngo.N	整形外科	Malignant Transformation of Nodular Hidradenoma in the Lower Leg.	Case Rep Oncol. 2018 May 17;11(2):298–304.	Case report
35	塙 芳典	内科学2(消化器内科)	Crohn's Disease Accompanied with Small Intestinal Extramedullary Plasmacytoma.	Intern Med. 2019/07/15	Original Article

36	丸田 紘史	内科学2(消化器内科)	Nicotine treatment ameliorates DSS-induced colitis by suppressing MAdCAM-1 expression and leukocyte recruitment.	J Leukoc Biol. 2018/11	Original Article
37	高本 俊介	内科学2(消化器内科)	Clinical differences between elderly-onset ulcerative colitis and non-elderly-onset ulcerative colitis: A nationwide survey data in Japan.	J Gastroenterol Hepatol. 2018/11	Original Article
38	高本 俊介	内科学2(消化器内科)	Safety and efficacy of leukocytapheresis in elderly patients with ulcerative colitis: The impact in steroid-free elderly patients.	J Gastroenterol Hepatol. 2018/08	Original Article
39	古橋 廣崇	内科学2(消化器内科)	Vitamin A-coupled liposome system targeting free cholesterol accumulation in hepatic stellate cells offers a beneficial therapeutic strategy for liver fibrosis.	Hepatol Res. 2018/04	Original Article
40	西井 慎	内科学2(消化器内科)	Human intestinal spirochetosis mimicking ulcerative colitis.	Clin J Gastroenterol. 2018/04	Case report
41	伊東 傑	内科学2(消化器内科)	Atypical Clinical Presentation of Crohn's Disease with Superior Mesenteric Vein Obstruction and Protein-losing Enteropathy.	Intern Med. 2018/09/12	Case report

42	Ito K	泌尿器科	Impact of inflammatory marker levels one month after the first-line targeted therapy initiation on progression-free survival prediction in patients with metastatic clear cell renal cell carcinoma.	Jpn J Clin Oncol. 2019 Jan;49(1):69-76.	Original Article
43	Ito K	泌尿器科	Clinical Outcomes in Patients With Metastatic Papillary Renal-Cell Carcinoma: A Multi-Institutional Study in Japan.	Clin Genitourin Cancer. 2018 Dec;16(6):e1201-e1214.	Original Article
44	Okubo K	泌尿器科	Recurrent retroperitoneal soft tissue sarcoma showing drastic reduction after pazopanib administration accompanied by severe liver dysfunction.	Urol Case Rep. 2018 Jun 6;20:22-24.	Case report
45	Isono M	泌尿器科	Metastatic Small Cell Carcinoma of the Urinary Bladder That Recurred in the Vagina 6 Years after Radical Cystectomy: A Case Report.	Case Rep Urol. 2018 Oct 24;2018:3069294.	Case report
46	Isono M	泌尿器科	Evaluation of Therapeutic Potential of Phenoxodiol, a Novel Isoflavone Analog, in Renal Cancer Cells.	Anticancer Res. 2018 Oct;38(10):5709-5716.	Original Article
47	Okubo K	泌尿器科	Panobinostat and Nelfinavir Inhibit Renal Cancer Growth by Inducing Endoplasmic Reticulum Stress.	Anticancer Res. 2018 Oct;38(10):5615-5626.	Original Article

48	Okubo K	泌尿器科	Crizotinib in an Anaplastic Lymphoma Kinase Gene-Rearranged Non-Small Cell Lung Cancer Patient.	Urology. 2018 Nov;121:e3-e4.	Case report
49	Okubo K	泌尿器科	Nelfinavir Induces Endoplasmic Reticulum Stress and Sensitizes Renal Cancer Cells to TRAIL.	Anticancer Res. 2018 Aug;38(8):4505-4514.	Original Article
50	Isono M	泌尿器科	Delanzomib Interacts with Ritonavir Synergistically to Cause Endoplasmic Reticulum Stress in Renal Cancer Cells.	Anticancer Res. 2018 Jun;38(6):3493-3500.	Original Article
51	Kouzu K	外科1	Diagnostic accuracy of T stage of gastric cancer from the view point of application of laparoscopic proximal gastrectomy.	Mol Clin Oncol. 2018 Jun;8(6):773-778.	Original Article
52	Horiguchi H	外科1	Investigators. Innate Immunity in the Persistent Inflammation, Immunosuppression, and Catabolism Syndrome and Its Implications for Therapy.	Front Immunol. 2018 Apr;9:595.	Original Article
53	Shinto E	外科1	Prominent Information of jN3 Positive in Stage III Colorectal Cancer Removed by D3 Dissection: Retrospective Analysis of 6866 Patients From a Multi-institutional Database in Japan.	Dis Colon Rectum. 2018 Apr;61(4):447-453.	Original Article

54	Nomura S	外科1	Impact of angiotensin-converting enzyme 2 levels on postoperative pneumonia after esophagectomy.	J Surg Res. 2018 Apr;224:200-206.	Original Article
55	Ueno H	外科1	Disentangling the prognostic heterogeneity of stage III colorectal cancer through histologic stromal categorization.	Surgery. 2018 Apr;163(4):777-783.	Original Article
56	Nagata K	外科1	Impact of reduced skeletal muscle volume on clinical outcome after esophagectomy for esophageal cancer: A retrospective study.	Medicine (Baltimore). 2018 Jul;97(30):e11450.	Original Article
57	Ishibashi Y	外科1	Prognostic Value of Preoperative Systemic Immunoinflammatory Measures in Patients with Esophageal Cancer.	Ann Surg Oncol. 2018 Oct;25(11):3288-3299.	Original Article
58	Mochizuki S	外科1	elective Inhibition of ADAM28 Suppresses Lung Carcinoma Cell Growth and Metastasis.	Mol Cancer Ther. 2018 Nov;17(11):2427-2438.	Original Article
59	Horiguchi H	外科1	What's New in Shock, April 2018?	Shock. 2018 Apr;49(4):355-357.	Original Article

60	Einama T	外科1	Optimal resection area for superior mesenteric artery nerve plexuses after neoadjuvant chemoradiotherapy for locally advanced pancreatic carcinoma. Medicine (Baltimore). 2018 Aug;97(31):e11309.	Medicine (Baltimore). 2018 Aug;97(31):e11309.	Original Article
61	Nagata K	外科1	A case of intrahepatic cholangiocarcinoma that was difficult to diagnose prior to surgery: A case report.	Oncol Lett. 2019 Jan;17(1):823–830	Case report
62	Shinto E	外科1	A New N Staging System for Colorectal Cancer in the Era of Extended Lymphadenectomy	Ann Surg Oncol. 2018 Dec;25(13):3891–3897.	Original Article
63	Kouzu K	外科1	Hepatic portal venous gas related to appendicitis.	J Surg Case Rep. 2018 Dec 26;2018(12):rjy333.	Case report
64	Yamagishi Y	外科1	Metachronous bilateral triple-negative breast cancer associated with neurofibromatosis type 1: A case report.	Oncol Lett. 2019 Mar;17(3):2818–2824.	Case report
65	Shiraishi T	外科1	Mesothelin expression has prognostic value in stage I I / I I I colorectal cancer.	Virchows Arch. 2019 Mar;474(3):297–307.	Original Article

66	Kishi Y	外科3	Extent of lymph node dissection in patients with gallbladder cancer.	Br J Surg. 2018 Nov;105(12):1658–1664. doi: 10.1002/bjs.10913. Epub 2018 Jul 11.	Original Article
67	Uchida T	内科1)腎臓内分泌内科	Activated natural killer T cells in mice induce acute kidney injury with hematuria through possibly common mechanisms shared by CD56+ T cells	Am J Physiol Renal Physiol. 2018 Sep 1;315(3):F618–F627.	Original Article
68	Ito S	腎臓内分泌内科	Serial Manifestation of Acute Kidney Injury and Nephrotic Syndrome in a Patient with TAFRO Syndrome.	Intern Med. 2018 Nov 1;57(21):3129–3133.	Case report
69	Oshima N	腎臓内分泌内科	Erythropoietin, a putative neurotransmitter during hypoxia, is produced in RVLM neurons and activates them in neonatal Wistar rats.	Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol. 2018 ;314(5):R700–R708.	Original Article
70	Watanabe A	腎臓内分泌内科	Aberrant DNA methylation of pregnane X receptor underlies metabolic gene alterations in the diabetic kidney.	Am J Physiol Renal Physiol. 2018 ;314(4):F551–F560.	Original Article
71	Uchida T	腎臓内分泌内科	Repeated administration of alpha-galactosyl-ceramide ameliorates experimental lupus nephritis in mice.	Scientific Reports. 2018; 8: 8225, p1–12.	Original Article

72	Tominaga K	腎臓内分泌内科	Anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated glomerulonephritis with detection of myeloperoxidase and phospholipase A2 receptor in membranous nephropathy lesions: report of two patients with microscopic polyangiitis.	BMC Nephrology 2018; 19:120: p1-5	Original Article
73	石川 貴裕	皮膚科	Acroangiodermatitis with pincer nail of the finger due to venous hypertension from hemodialysis arteriovenous shunt	Eur J Dermatol 128 : 247-248, 2018	Case report
74	端本 宇志	皮膚科	Toe gangrene associated with macroangiopathy in systemic sclerosis: a case series on the unreliability of the ankle-brachial pressure index.	Acta Derm Venereol 98 : 532-533, 2018.	Case report
75	山崎 雄貴	皮膚科	Acute generalized exanthematous pustulosis associated with Helicobacter pylori eradication therapy with elevated serum procalcitonin	Eur J Deramtol 28 : 259-260, 2018	Case report
76	藤本 典宏	皮膚科	Psoriasis vulgaris in a patient with pemphigus vulgaris under glucocorticoid therapy.	Journal der Deutschen Dermatologischen Gesellschaft 16 : 606-608, 2018.	Case report
77	藤本 典宏	皮膚科	Paradoxical uveitis and pyoderma gangrenosum in a patient with psoriatic arthritis under infliximab therapy.	Journal der Deutschen Dermatologischen Gesellschaft 16: 1139-1140, 2018	Case report

78	石川 貴裕	皮膚科	Kawasaki disease-like symptoms occurring concomitantly with Hodgkin's lymphoma.	Eur J Dermatol 28: 694–696, 2018.	Case report
79	吉井 優太	皮膚科	Wells' syndrome associated with Coxsackievirus A6 infection.	Acta Derm Venereol 98: 791–792, 2018.	Case report
80	山崎 雄貴	皮膚科	Acute infectious urticarial associated with human parvovirus B19 infection.	J Cutan Immunol Allergy 1: 119–120, 2018.	Case report
81	吉井 優太	皮膚科	Multiple eccrine poroma in a patient with systemic lupus erythematosus.	Eur J Dermatol 28: 837, 2018.	Case report
82	下方 美穂	皮膚科	Case of psoriasisiform and pustular eruptions in addition to alopecia as a paradoxical reaction induced by infliximab.	J Dermatol 45: e331–333, 2018	Case report
83	廣瀬 美希	皮膚科	Onychomycosis caused by Aspergillus subramanianii.	J Dermatol 45: 1362–1366, 2018	Case report

84	Tatsunori Nagamura	救急部	Fulminant pseudomembranous enterocolitis caused by Klebsiella oxytoca:an autopsy case report	Acute Medicine & Surgery 2019 6: p.78-82、209.02	Case report
85	Hiroaki Soyama	産科婦人科学講座	Analysis of prophylactic Bakri balloon tamponade failure in patients with placenta previa.	Taiwan J Obstet Gynecol 58巻1号 2019年01月 P 159-163	Original Article
86	Hiroki Ishibashi	産科婦人科学講座	Response to Correspondence: Marginal sinus placenta previa is a different entity in placenta previa: A retrospective study using magnetic resonance imaging.	Taiwan J Obstet Gynecol 57巻6号 2018年12月 P 910-910	Others
87	Hiroki Ishibashi	産科婦人科学講座	Prolonged stable disease using pazopanib in recurrent and refractory uterine leiomyosarcoma: a proposal of "pazopanib beyond progression"	Eur J Gynaecol Oncol 39巻5号 2018年09月 P 821-824	Case report
88	Miyamoto Morikazu	産科婦人科学講座	Different prognostic implications of aquaporin-1 and aquaporin-5 expression among different histological types of ovarian carcinoma	Pathol Oncol Res 2018年07月	Original Article
89	Sei Kiguna	産科婦人科学講座	Measurement of blood-oxygen saturation using a photoacoustic technique in the rabbit hypoxemia model	Journal of Clinical Monitoring and Computing 6巻1号 2018年06月 P1-4	Original Article

90	Hidenori Sasa	産科婦人科学講座	Pancreatic metastasis of uterine cervix cancer mimicking a primary cancer	Digestive System 2卷1号 2018年04月 doi:10.15761/DSJ1000113 P	Case report
91	Sei Kiguna	産科婦人科学講座	Size of uterine leiomyoma is a predictor for massive haemorrhage during caesarean delivery.	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol 223号 2018年04月 P60-63	Original Article
92	Hiroaki Soyama	産科婦人科学講座	Pregnancy with "mimicking placenta previa and large cervical leiomyoma" caused by incarcerated retroverted uterus	Taiwan J Obstet Gynecol 57卷4号 2018年08月 P 616-617	Original Article
93	Hiroki Ishibashi	産科婦人科学講座	Marginal sinus placenta previa is a different entity in placenta previa:A retrospective study using magnetic resonance imaging	Taiwan J Obstet Gynecol 57卷4号 2018年08月 P 532-535	Original Article
94	Hiroaki Soyama	産科婦人科学講座	A case of refeeding syndrome in pregnancy with anorexia nervosa	Obstet Med 2018.6月 11卷2号 P95-97	Case report
95	Hiroaki Soyama	産科婦人科学講座	A Pathological Study Using 2014 WHO Criteria Reveals Poor Prognosis of Grade3 Ovarian Endometrioid Carcinomas	In Vivo 2018.5-6月 32卷3号 P597-602	Original Article

96	Yoshikawa T	産科婦人科学講座	JAK2/STAT3 pathway as a therapeutic target in ovarian cancers	Oncol Lett 2018.8月 15巻4号 P5772-5780	Original Article
97	Takasaki K	産科婦人科学講座	Addition of bevacizumab to gecitabine for platinum-resistant recurrent ovarian cancer:areetrospective analysis	Cancer Chemother Pharmacol 2018.5月 81巻5号 P809-814	Original Article
98	Miyamoto Morikazu	産科婦人科学講座	Seromucinous component in endometrioid endometrial carcinoma as a histological predictor of prognosis	J Gynecol Oncol.2018.3月 29巻2号	Original Article
99	Miyamoto Morikazu	産科婦人科学講座	The Haphazard Pattern in Grade-3 Endometrioid Carcinoma ls Associated with Poor Prognosis and Tumor Lymphocyte Infiltration	Pathol Oncol Res 2019年01月 58巻1号 P159-163	Original Article
100	Mitsui-Sekinaka K	小児科	A pediatric case of acute megakaryocytic leukemia with double chimeric transcripts of CBFA2T3-GLIS2 and DHH-RHEBL1.	Leuk Lymphoma.2018, 59:1511-1513.	Case report
101	Tsujita Y	小児科	A severe anaphylactic reaction associated with IgM-class anti-human IgG antibodies in a hyper-IgM syndrome type 2 patient.	J Clin Immunol. 2018, 38:144-148.	Case report

102	Nakamura Y, Matsumoto H, Zaha K, et al.	小児科	TUBB3 E410K syndrome with osteoporosis and cough syncope in a patient previously diagnosed with atypical Moebius syndrome.	Brain Dev. 2018 Mar; 40: 233-7.	Case report
103	Asano T	小児科	Enhanced AKT phosphorylation of circulating B cells in patients with activated PI3K δ syndrome.	Front Immunol. 2018, 9:568.	Original Article
104	Takajo D	小児科	Severe pertussis in a young infant due to household transmission: the needs of pertussis vaccination boosters in Japan.	Clin Case Rep. 2018, 6:810-812.	Case report
105	Isobe K	小児科	Infantile spasms in a mosaic monocentric and duplicated SMC 15 patient.	Brain Dev. 2018, 40: 891-896.	Original Article
106	Kamae C	小児科	Clinical and immunological characterization of ICF syndrome in Japan.	J Clin Immunol. 2018, 38:927-937.	Original Article
107	Sato T	眼科	Potential Phototoxicity of Indocyanine Green in Retinal Pigment Epithelial Cells after Angiography under Ambient Illumination.	Oxid Med Cell Longev. 2018 Jun 27;2018:6065285. doi: 10.1155/2018/6065285. eCollection 2018.	Original Article

108	Sato T	眼科	Pregnancy-induced hypertension-related choriorretinitis resembling uveal effusion syndrome: A case report.	Medicine (Baltimore). Jul 97(30): e11572. 2018.	Case report
109	Sato T	眼科	Retinitis associated with double infection of Epstein-Barr virus and varicella-zoster virus: A case report.	Medicine (Baltimore). 2018 Aug;97(31)	Case report
110	Inada M	眼科	Protective effects of dexamethasone on hypoxia-induced retinal edema in a mouse model.	Exp Eye Res. 2018 Sep 26;178:82-90	Original Article
111	Kanda K	眼科	Chronic postcataract endophthalmitis caused by Penicillium species in an immunocompetent patient.	Int Med Case Rep J. 2018 Oct 8;11:259-262	Original Article
112	Takayama K	眼科	Novel Classification of Early-stage Systemic Hypertensive Changes in Human Retina Based on OCTA Measurement of Choriocapillaris.	Sci Rep. 2018 Oct 11;8(1)	Original Article
113	Tominaga K	腎臓内科	Anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated glomerulonephritis with detection of myeloperoxidase and phospholipase A2 receptor in membranous nephropathy-lesions: report of two patients with microscopic polyangiitis.	BMC Nephrology. 2018 May; (オンライン)	Original Article

114	Yada H	循環器内科	Management of Arrhythmias Associated with Cardiac Sarcoidosis.	Korean Circ J. 2019 Feb;49(2):119–133. doi: 10.4070/kcj.2018.0432. Review.	Review
115	Nobuyuki Masaki	循環器内科	Endothelial Insulin Resistance of Freshly Isolated Arterial Endothelial Cells From Radial Sheaths in Patients With Suspected Coronary Artery Disease	Journal of the American Heart Association. 2019 /03	Case report
116	Takumi Toya	循環器内科	Dasatinib-induced Pulmonary arterial hypertension complicated with scleroderma: a case report.	European Heart Journal Case Rep. 2019 Mar; 3: ytz025	Case report
117	Takumi Toya	循環器内科	Friend of foe: food-dependent exercise-induced anaphylaxis associated with acute coronary syndrome aggravated by adrenaline and aspirin: a case report	European Heart Journal Case Rep. 2019 Aug; 3: ytz143	Case report
118	Takumi Toya	循環器内科	Computed tomography-measured pulmonary artery to aorta ratio and EUTOS score for detecting dasatinib-induced pulmonary arterial hypertension.	International Journal of Cardiovascular Imaging. 2019 Aug; 35: 1435–1442.	Original Article
119	Aizawa Tetsush	形成外科	Quaba Flap for Reconstruction after Cancer Resection of an Amputated Finger Stump	Journal of Hand and Microsurgery 10(2): p.119–122, 2018.08	Case report

120	Aizawa Tetsush	形成外科	Polyglycolic Acid Felt for Prevention of Frey's Syndrome after Parotidectomy	Annals of Plastic Surgery 81(4): p.438–440, 2018.10	Original Article
121	Kuwabara Masahiro	形成外科	Disinfection of Pseudomonas aeruginosa-infected wounds in diabetic db/db mice by weakly acidic hypochlorous acid	Wound Medicine 23: p.1–5, 2018.12	Original Article
122	Takabayashi Yuki	形成外科	FGF-2-containing dalteparin/protamine nanoparticles (FGF-2&D/P NPs) ameliorate UV-induced skin photoaging in hairless mice	Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery 52(6): p.375–381, 2018.12	Original Article
123	Aizawa Tetsushi	形成外科	Approaches for Excision of Intramasseteric Nodules	Journal of Craniofacial Surgery 30(1): p.e92–e94, 2019.01	Original Article
124	橋本賢一	集中治療部	A novel signal-averaged electrocardiogram and an ambulatory-based signal-averaged electrocardiogram show strong correlations with conventional signal-averaged electrocardiogram in healthy subjects: A validation study	J Electrocardiol. 2018 Nov – Dec;51(6):1145–1152	Original Article
125	橋本賢一	集中治療部	Diurnal variation of frequency domain T wave alternans on 24-hour ambulatory electrocardiogram in subjects without heart disease: Significant effect of autonomic nervous activity of the heart.	Ann Noninvasive Electrocardiol. 2019 May;24(3):e12620	Original Article

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とすることは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない)、巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Amako M	リハビリテーション部	Epidemiological patterns of traumatic musculoskeletal injuries and non-traumatic disorders in Japan Self-Defense Forces.	Inj Epidemiol. 2018 May 1;5(1):19. doi: 10.1186/s40621-018-0150-2.	Original Article
2					
3					
～					

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

## (1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の主な内容 申請手続、委員会審査及び分科会審査手続、審査結果の通知</li> </ul>	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
 2 前年度の実績を記載すること。

## (2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規定の主な内容： 利益相反の審議をするための委員会（委員の任期、決議方法）、申請手続、判定結果の通知要領及び守秘義務等</li> </ul>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年0回 事前確認によって（事前確認要員4名全員の判定）明らかに利益相反が認められないと判定された為）

(注) 前年度の実績を記載すること。

## (3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 日本学術振興会「研究倫理eラーニング」</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

## (様式第4)

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

## 1 研修の内容

医師である幹部自衛官（医官）に対して、国際貢献や災害時活動など国家的緊急事態における突発的な疾病・傷害に対する幅広い初期診療能力を習得させることを目標としている。災害初期診療における重症外傷患者に対して系統的な理論に基づいた診断と初期治療を迅速かつ的確に行う能力を身につけるとともに大量傷者発生に対応できる基本的能力を獲得させる。また専門領域以外の領域における初期診療に必要な基本的な知識を修得させ、積極的に救急医療及び災害医療の研修機会を持たせる。

## 2 研修の実績

研修医の人数	62人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
足立 健	内科	教授	30年	
熊谷 裕生	内科	教授	37年	
穂刈 量太	内科	教授	28年	
川名 明彦	内科	教授	35年	
木村 文彦	内科	教授	35年	
池脇 克則	内科	教授	35年	
上野 秀樹	外科	教授	29年	
田口 真一	外科	教授	35年	
吉野 相英	精神科	教授	35年	
野々山 恵章	小児科	教授	36年	
千葉 一裕	整形外科	教授	36年	
森 健太郎	脳神経外科	教授	37年	
佐藤 貴浩	皮膚科	教授	34年	
伊藤 敬一	泌尿器科	教授	38年	
古谷 健一	産科婦人科	教授	40年	
竹内 大	眼科	教授	30年	
塩谷 彰浩	耳鼻咽喉科	教授	32年	
新本 弘	放射線科	教授	40年	
池田 健彦	麻酔科	教授	29年	
池内 尚司	救急救命センター	教授	39年	
斎藤 大蔵	外傷研究部門	教授	36年	
清澤 智晴	形成外科	教授	37年	
中西 邦昭	検査部	教授	39年	
小林 龍生	リハビリテーション部	教授	38年	
田中 祐司	総合臨床部	教授	35年	
辻 明	輸血・血液浄化療法部	教授	37年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別		1. 計画 (2). 現状				
管理責任者氏名	病院長 浅野 友彦					
管理担当者氏名	運営企画課長 大久保 進 運営支援課長 白井 克昌 材料部長 竹内 大 医療情報部長 池脇 克則 薬剤部長 小杉 隆祥 医療安全推進室長 高畑 りさ 感染対策室長 藤倉 雄二					
診療に関する諸記録		保管場所	管 理 方 法			
規則第十二条の三第二項に掲げ	病院日誌	運営企画課 医療情報部	カルテ等の病歴資料は、医療情報部で一括管理している。外来カルテは診療科毎、入院カルテは入院期間毎に作成され、電算機に登録されており、保存期間は10年である。医療記録利用規則により院外への退出は禁止している。			
	各科診療日誌					
	処方せん					
	手術記録					
	看護記録					
	検査所見記録					
	エックス線写真					
	紹介状					
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書					
規則第十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	運営支援課	文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。			
	高度の医療の提供の実績					
	高度の医療技術の開発及び評価の実績					
	高度の医療の研修の実績					
	閲覧実績	運営支援課				
	紹介患者に対する医療提供の実績					
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿					
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室	文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。			
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況					
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況					
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況					

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況 院内感染対策のための委員会の開催状況 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況 医薬品安全管理責任者の配置状況	感染対策室 文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
		医薬品の安全使用のために必要な未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
		医療機器安全管理責任者の配置状況 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
		医療機器の安全使用のために必要な情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
			薬剤部 材料部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十五号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	
		医療安全管理部門の設置状況	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
		監査委員会の設置状況	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	運営支援課 医療安全推進室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進室
		職員研修の実施状況	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

## (様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

## ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	(2). 現状	
閲 覧 責 任 者 氏 名	病院長	浅野 友彦	
閲 覧 担 当 者 氏 名	各診療科部長・運営支援課長・運営企画課長・材料部長・薬剤部長		
閲 覧 の 求 め に 応 じ る 場 所	病院第3会議室		
閲覧の手続の概要			
閲覧者の閲覧希望の内容に応じて、該当する各閲覧担当者は諸記録を所定の閲覧場所へ集積して、閲覧に供する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

## ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 開 覧 件 数	延	0 件
閲 覧 者 別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地 方 公 共 団 体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容 :</li> <li>(1) 安全管理システムの構築</li> <li>(2) 医療従事者の研鑽</li> <li>(3) インシデント・アクシデントレポートの推進</li> <li>(4) 安全管理組織の充実</li> <li>(5) 職員教育・研修の充実</li> <li>(6) 医療事故発生時の対応方針</li> <li>(7) 患者相談窓口の設置</li> <li>(8) 高難度新規医療技術等に関する事項</li> <li>(9) 未承認新規医薬品等に関する事項</li> <li>(10) 医療安全管理マニュアルの改訂</li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無 ( (有)・無 )</li> <li>・ 開催状況 : 年 12回</li> <li>・ 活動の主な内容 :</li> </ul> <p>(1) 病院内における安全管理のための指針の整備に関すること  (2) 病院内における安全管理のための医療事故の報告要領に関すること  (3) インシデント報告及びアクシデント報告に基づく医療事故防止に必要な方策の策定に関すること  (4) 医療事故発生時の対応要領に関すること  (5) 安全管理体制確保のために必要な職員の教育研修制度に関すること</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 23回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容 (すべて) :</li> <li>(1) 新着任者、中途採用者に対する当院の医療安全管理体制についてのオリエンテーション (全職種) 9回／年</li> <li>(2) 新入職者 (看護師) に対するオリエンテーション 1回／年</li> <li>(3) 産児休業後復帰者に対するオリエンテーション 1回／年</li> <li>(4) 当院におけるリスクマネージメントについて (初任実務研修医、専門研修医、研究科) 計5回／年</li> <li>(5) 看護管理者のための安全管理教育 1回／年</li> <li>(6) 看護部研修生に対するオリエンテーション 1回／年</li> <li>(7) KYT、インシデントレポート入力講習 1回／年</li> <li>(8) 看護学生に対する医療安全管理体制についての卒前教育 1回／年</li> <li>(9) 全職員対象医療安全・感染対策講習 2回／年</li> <li>(10) コメディカル対象のBLS講習会 1回／年</li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( (有)・無 )</li> <li>・ その他の改善の方策の主な内容 :</li> </ul> <p>(1) 院内全死亡例の報告および死亡例カンファレンス実施の義務化  (2) オカレンス (合併症等) 事例に係わる報告の義務化  (3) 院内における暴言・暴力に係わる報告制度  (4) 安全対策プロジェクトチームにおけるインシデント事例の再発防止策の検討及び検証のための院内ラウンドの実施  (5) 上記1) ~ 4) の安全管理委員会、部長会での情報の共有と周知の実施</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	( <input checked="" type="radio"/> 有・無)
・ 指針の主な内容： 院内感染の未然防止、発生時の迅速適切な対処を定めた基本方針、感染対策委員会、感染対策室及び感染管理チームの設置、各診療科等の感染対策管理のための責任者の配置、感染対策マニュアルの整備、院内感染発生時の対処、各種報告の義務、職員研修の実施及び患者等との情報共有	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
・ 活動の主な内容： (1) 院内感染対策に関すること (2) 院内感染管理体制に関すること (3) 集団発生するおそれのある感染症の対策に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 12回
・ 研修の内容（すべて）： (1) 感染対策研修の実施 (2) 周術期抗菌薬適正使用への取り組み (3) 院外講師を招聘し、医療関連感染対策講習会を開催 (4) 採用時オリエンテーション (5) 手指衛生と個人防護具着脱について部署別研修	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有・無 ) ・ その他の改善の方策の主な内容： (1) 携帯版の感染対策マニュアルを作成し全職員に配布、携帯を義務付 (2) イベント発生に即応した薬剤耐性菌やインフルエンザ等に関する職員教育の実施 (3) A T P 拭き取り検査器等を使用した実地指導の実施 (4) 反復したラウンドを実施し遵守状況を数値可視化 (5) 部署毎に手指衛生使用量を計測し、1入院患者1日あたりの手指衛生回数をフィードバック (6) 蓄尿の届け出、許可制を導入 (7) 携帯用手指衛生剤の導入 (8) 抗菌薬使用状況の把握、抗菌薬適正使用の推進 (9) 血液培養サーベイランスの実施	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有・無)
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 8 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 :</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 第19回N S T講習看護職員初任者研修 : 薬剤部業務について理解する</li> <li>(2) 看護職員初任者研修 : 薬剤の取り扱い</li> <li>(3) 看護師オリエンテーション(2回) :</li> <li>(4) 精神科病棟における薬剤師の役割～精神科用剤の処方について～</li> <li>(5) 研修医オリエンテーション : オーダリングシステム教育～医療事故を起こさないために～</li> <li>(6) 専門研修医師オリエンテーション(2回) : オーダリングシステム教育～医療事故を起こさないために～</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有・無)</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容 :</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 医薬品の選定</li> <li>(2) 医薬品管理</li> <li>(3) 調剤</li> <li>(4) 薬剤管理指導業務</li> <li>(5) 医薬品情報</li> <li>(6) 地域薬剤師会との連携</li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :</li> </ul>	
<p><b>【収集方法】</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 製薬会社医薬品情報担当者からの情報収集</li> <li>② 医薬品安全対策情報(DSU)からの情報収集</li> <li>③ PMDA、日本医療機能評価機構のHPからの情報収集 等</li> </ul>	
<p><b>【周知方法】</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 院内メール、文書による配布、医療用端末における「掲示板」への掲示、薬剤部DIニュース</li> </ul>	

【その他の改善のための方策の主な内容】

- ② オーダリングおよび薬剤部門システムを利用した薬用量チェックの設定
- ③ 薬剤部薬品棚の表示および調剤手順の見直し
- ④ 採用医薬品の見直し

【未承認等の事例】

【適応外】軟骨肉腫に対するパソパニブ(ヴォトリエント錠)の投与 他  
【禁忌】カルバペネム系抗菌薬とバルプロ酸Naの併用

- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 26 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 :</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 新着任医師、看護師に対する各機器操作と安全管理</li> <li>(2) 使用者に対する機器操作と安全管理</li> <li>(3) 機器導入時の操作法と安全管理</li> <li>(4) 使用現場巡回安全管理指導</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 (有)・無 )</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容 :</li> </ul> <p>人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置をはじめとする機器について、日常点検、定期点検を院内各部で分担又は部外委託で実施</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無 )</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) :</li> </ul> <p>使用事例なし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その他の改善の方策の主な内容 :</li> </ul> <p>医療端末掲示板から閲覧できる形の安全管理ガイドラインを作成し方針を示しているほか、リンク形式で添付文、マニュアル、研修内容、点検計画等の閲覧ができるようにしている。 また、院内メールを用いて隨時安全情報を発信している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</li> <li>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</li> </ul>	
医療安全管理責任者が医療安全管理部門の管理を行うとともに、1回／週管理者に対して医療安全管理部門とともに安全に関する報告を実施している。また、安全管理委員会委員長として、委員会を開催し、各責任者からの報告を受け指導を行うとともに病院部長会において、委員会の報告を実施している。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (3名)・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</li> </ul>	
医薬品安全管理責任者は医薬品情報室を活用し、製薬会社医薬品情報担当者、医薬品安全対策情報(DSU)、医薬品・医療機器等安全性情報、PMDA、日本医療機能評価機構等のHPから情報の収集と整理の報告を受ける。またDIニュース等を毎月定期的に薬剤師が病棟へ重要点を説明して文書配布、さらに医療従事者全員にメール配信、医療端末掲示板への掲示し、院内周知を図る。イエローレター、ブルーレター等は、患者の投薬歴を調査し、関連診療科へ迅速かつ直接、情報提供を行う。また、医療情報提供会社と契約し、毎日医薬品関連ニュースが配布、配信され、それをもとに情報確認して医療従事者へ情報提供する。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</li> </ul>	
医薬品安全管理責任者は未承認等医薬品の取り扱いに関して事務局を医薬品情報室に設置して薬剤部各部署および診療科からの適応外・禁忌に使用する情報を収集し報告を受ける。未承認等医薬品の使用について審議が必要となった場合は、未承認医薬品等評価委員会委員長に報告し、委員会を開催し使用の適否を審議する。また承認された事例は薬事委員会、安全管理委員会へ報告、医療端末掲示板に掲示し院内周知を図るとともに承認後の臨床使用成績についても情報を収集する。また必要に応じ手順の見直しを行っている。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者の指名の有無 (有)・無)</li> </ul>	
・担当者の所属・職種：	
(所属：薬剤部，職種 薬剤師 )	(所属： , 職種 )
(所属： , 職種 )	(所属： , 職種 )
(所属： , 職種 )	(所属： , 職種 )
(所属： , 職種 )	(所属： , 職種 )

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無 )</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>IC・診療録管理責任者を長としカルテ委員会を設置。各診療科カルテ委員が定期的にカルテ監査を実施し、ICについて規定された事項につき監査を実施、適宜不足事項に関する指導を実施している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>IC・診療録記録責任者を長としカルテ委員会を設置。各診療科カルテ委員が定期的にカルテ監査を実施し、各々の規定された項目につき監査を実施、監査状況に応じて指導を行っている。</p> <p>また、初任実務研修医に対しては、新着任者教育の際に診療録記載マニュアルを用いて教育を実施している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	
<p>・所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（3）名            うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（3）名            うち薬剤師：専従（1）名、専任（）名、兼任（）名            うち看護師：専従（2）名、専任（）名、兼任（）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 事故等に関する診療録や看護記録への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>(2) 患者や家族への説明等事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>(3) 事故時の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>(4) 医療安全に係る連絡調整に関すること。</li> <li>(5) 医療安全に資する診療内容のモニタリング及び職員の医療安全の認識の状況の確認</li> <li>(6) 医療の安全に係る教育・研修の企画及び運営に関すること。</li> <li>(7) 医療安全に係るマニュアル類の整備に関すること。</li> <li>(8) 医療安全文化の醸成に関すること。</li> <li>(9) 前各号に掲げるものの他、医療安全対策の推進に関すること。</li> </ul>	

※医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例

安全管理委員会において毎月のインシデント・オカレンス発生件数、職種別、レベル別、関連別のそれぞれの報告数についてモニタリングを実施し報告している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

#### ⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（3件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・ 無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・ 無）
- ・活動の主な内容：
  - (1) 高難度新規医療技術の提供の申し出の受領
  - (2) 高難度新規医療技術評価委員会の開催
  - (3) 高難度新規医療技術承認後の実施事例のモニタリング
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・ 無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・ 無）

#### ⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（5件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・ 無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・ 無）

・活動の主な内容：

- (1) 未承認新規医薬品等の提供の申し出の受領
- (2) 未承認新規医薬品等評価委員会の開催
- (3) 未承認新規医薬品等評価委員会における審議結果報告、記録の作成・保管
- (4) 未承認新規医薬品等評価委員会の実施事例のモニタリング

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有  無）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ 有  無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年427件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年15件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容  
安全管理委員会において全死亡症例の報告を実施。全死亡例における死亡例カンファレンス実施状況の各診療科別の報告、病理解剖実施率、AI実施率について報告。全死亡症例の概要についても報告を行い、安全推進室にて検討を実施した事例について報告を行い、必要に応じて審議を行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（ 有 (病院名：神戸大学付属病院)  無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有 (病院名：秋田大学付属病院)  無）
- ・技術的助言の実施状況
  - (1) 医療安全管理部門における専従事務の配置
  - (2) 診療情報管理士の配置について
  - (3) 臨床工学技士のマンパワーの充足について
  - (4) 病棟常備配置薬の劇薬表示について
  - (5) 未承認新規医療機器の適否を決定する部門の設置について
  - (6) 高難度新規医療技術に関する担当部門への手術を行う部門に所属する従業員の配置について

(7) 高難度新規医療技術評価委員会委員に歯科医師を含めることについて

(8) インフォームドコンセントにおける異なる職種の同席について

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

事務部運営支援課に「患者相談窓口」を設置

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

医療安全・感染対策講習会を2回／年実施。未受講者については、追加ビデオ講習会を実施し全職員の受講を確認。

【平成30年度実績】

第1回 平成30年7月23日 第2回 平成31年1月30日

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構開催 平成30年度特定機能病院管理者研修受講

・管理者（第5回 東京）

・医療安全管理責任者（第4回 東京）

・医薬品安全管理責任者（第5回 東京）

・医療機器安全管理責任者（第4回 東京）

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

## 規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準	
・ 基準の主な内容	現在、策定中である。
・ 基準に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法	

## 規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付 す)	選定理由	特別の関 係
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容           <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 病院の管理運営に関すること。(2) 病院の医療安全管理及び訴訟に関すること。</li> <li>(3) 臨床教育に関すること。(4) 病院の手術及び医療材料に関すること。</li> <li>(5) 病院における諸施策の評価に関すること。</li> </ul> </li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・審議の概要の従業者への周知状況</li> </ul>	
<p>議事録の回覧</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公表の方法           <p>防衛医科大学校病院運営会に関する規則（平成17年防医大病院規則第2号）として規定し、防衛医科大学校法規類集に掲載するとともにインターネットでも閲覧可能としている</p> </li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部有識者からの意見聴取の有無 ( 有 (無) )</li> </ul>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
浅野 友彦	○	医師	病院長
千葉 一裕		医師	副院長
川名 明彦		医師	副院長
菅野 厚志		事務	事務部長
小杉 隆祥		薬剤師	薬剤部長
蒔苗 奈都代		看護師	看護部長
池脇 克則		医師	病院長補佐
新本 弘		医師	病院長補佐
齋藤 大蔵		医師	病院長補佐
辻 明		医師	病院長補佐

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・ 無）
- 公表の方法

防衛医科大学校の編制等に関する省令（昭和48年総理府令第65号）として公表しており、インターネットで閲覧可能である。

- 規程の主な内容

防衛医科大学校の編制等に関する省令（昭和48年総理府令第65号）第13条第5項において、「病院長は、校長の命を受け、院務を掌理する」と規定されており、病院に係る業務のすべてを統括し責任を有している。

- 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

防衛医科大学校病院においては、管理運営担当と医療安全担当の2名の副院長及び4名の院長補佐を任命し管理者たる病院長をサポートするとともに、病院事務部に運営企画課を設け、病院に係る各種企画業務等の補佐を実施している。

- 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

防衛医科大学校病院の副院長、院長補佐、各部長等に対し、可能な範囲で、人事院や防衛省本省で実施する管理者研修等を受講させている。  
(平成30年度実績：副院長（管理運営担当）、事務部長 防衛研究所特別過程を受講)

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<ul style="list-style-type: none"><li>・監査委員会の開催状況：年 3 回（平成29年度実績）</li><li>・活動の主な内容： 下記の項目について監査を実施、状況に応じて実地での確認を行う <ol style="list-style-type: none"><li>1) 医療安全部門の業務に関すること。</li><li>2) 全死亡例報告に関すること。</li><li>3) インシデント・アクシデントの発生の事実、発生前状況に関すること。</li><li>4) 医療安全管理に関すること。</li><li>5) インフォームド・コンセントの適切な実施状況に関すること。</li><li>6) 医療機器安全管理に関すること。</li><li>7) 高難度新規医療技術に関すること。</li><li>8) 診療録記載内容に関すること。</li><li>9) その他医療安全に関すること。</li></ol></li><li>監査委員は、上記の項目を口頭で説明を受け実地（医療等の現場）での確認を行う。</li><li>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無）</li><li>・委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無）</li><li>・委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無）</li><li>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無）</li><li>・公表の方法： 防衛医科大学校病院ホームページ</li></ul>	

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

防衛省組織令第39条第4号において、防衛省本省内部部局に置かれる衛生官の職務として「防衛医科大学校の管理及び運営一般に関すること」と規定され、管理者（病院長）の業務が法令に適合することの確保及び開設者（防衛大臣）による病院業務の監督に係る体制の整備は、既に講じられている。

- ・ 専門部署の設置の有無（・）
- ・ 内部規程の整備の有無（・）
- ・ 内部規程の公表の有無（・）
- ・ 公表の方法

インターネットで閲覧可能である。

## 規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

### 開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況

防衛省組織令第39条第4号において、防衛省本省内部部局に置かれる衛生官の職務として「防衛医科大学校の管理及び運営一般に関すること」と規定され、管理者（病院長）の業務が法令に適合することの確保及び開設者（防衛大臣）による病院業務の監督に係る体制の整備は、既に講じられていることから、別途会議体を設けることは要しない。

- ・ 会議体の実施状況（年0回）
- ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（有  無  ）（年0回）
- ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有  無  ）
- ・ 公表の方法

すでに法令として整備されてされおり、インターネットでも閲覧可能である。

### 病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

### 会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・ 無）
- ・通報件数（年3件）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有・ 無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・ 無）
- ・周知の方法

病院安全管理委員会より、リスクマネージャー全体会議及び病院部長会を通じて周知している。